

編集後記

短い梅雨が明け、記録的な暑さが暫し続いたと思ったら、戻り梅雨のような大雨である。線状降水帯という言葉も、いつしか耳慣れてしまいましたが、異常気象に見舞われている会員の皆さまは息災にお過ごしでしょうか。本年（令和4年）6月30日-7月3日に沖縄で開催された Neuro2022 は、現地参加が主としては久しぶりの大会でしたが、ポスター会場では皆さん対面での議論を満喫しているように見受けられました。また、大会長の大変なご尽力のお陰で、懇親会も盛況だったようです。

さて、「神経化学」61巻1号をお届けします。本号は通例通り、巻頭には「輝け次代の担い手たち」で活躍する若手会員の研究が紹介されています。また、最近独立した先生方の研究室紹介や、海外留学記（皆さん楽しそうですね！）に加え、海外でラボを持った研究者の奮闘ぶりなど盛りだくさんです。さらに、2017年の日本神経化学会大会長を務められた、福永浩司先生からご寄稿いただいた「私と神経化学」では、次代の神経化学研究者に求められることについて、ご提言をいただきました。

是非ともご一読の上、ご意見や自分も投稿したいというご希望がございましたら、事務局までご連絡下さい (jsn@imic.or.jp)。

等 誠司 (滋賀医科大学)

Facebook の公式アカウントも是非ご覧下さい。

<https://www.facebook.com/694342057338890/>

学会からの情報（大会開催・公募情報・学術集会等）や
記事（神経化学トピックス・研究室紹介等）を随時配信
していきます。

できましたら、「いいね！」のクリックを！



QRコードからも
アクセスできます